
地獄の沙汰は何次第？

由加 しい

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

地獄の沙汰は何次第？

【Nコード】

N2488BA

【作者名】

由加 しい

【あらすじ】

平々凡々な日常こそが人生、を念頭に置く星谷時雨は、生き返った。「なに！正式に生き返るには善行を積みなきゃいけないだつて！」地獄の使いの少女（自称750歳）と生き返った少年と周りの仲間たちの学園生活。

平々凡々な日常は何次第？

「悪いことをすると、地獄に連れていかれるぞ。だから悪い事をしちゃいけないんだ。わかるな」

父の財布を勝手に持ち出した僕に、父は諭すような口調でそう言った。

まだ小学校に入りたての僕は、新しくできた友達と、近所の駄菓子屋に行くのにお金がなかったので、たまたま家に置いてあった父の財布を持ち出した。

それは悪いことだ、という自覚はあったので、父の言うことの内容には納得がいかないわけではなかった。

けれど、地獄というものが何なのかはよく分からず、たぶん怖くて二度と戻れなくなるお仕置き部屋みたいなものだと思っていた。

今になって地獄について考えてみると、よく分からないことだらけだ。

宗教によって理解が異なり、地獄にいるのは鬼や閻魔大王だったり悪魔だったりする。誰かが言ってみてきたなんて記録があるわけでもないし、ましてや写真やビデオを撮ってきたなんてこともない。本当に存在する世界なのかもしれないし、存在しない世界なのかもしれない。

15歳の春、僕はそんな地獄と呼ばれる世界の一步手前まで行ってきた。そこにいたのは、いかつい鬼でも醜悪な悪魔でもなかった。

気が付くと暗闇の中にいた。自分の姿すら全く見えなくらいに深い闇。これは間違いない望んでいない非日常。

なんでこんなところにいるんだろう……。順を追って思い出してみよう。

確か今日は、ゴールデンウィークも過ぎ去った5月9日。朝の二
ユース番組で「アイスクリームの日」とか言っていた。正直どうで
もいいけど……。

朝はいつもどおりに起きて、朝食のトーストを食べて、身支度を
して高校に行くために自転車を漕いでいた。気温はそこそこ涼しい
くらいで、いつもと何一つ変わらない日常だった。

しかし、家から自転車ですら3分ほどの交差点に差し掛かったところ
で、「平々凡々な日常こそが人生」を念頭に置く僕の日常は、音を
立てて崩れ去った。

歩行者用の信号は確かに青だった。スピードを出したトラックが、
信号無視をしていきなり横から激突してきたのだ。全身を駆け巡る
激痛とともに、僕は宙を舞い、地面に打ち付けられた。

周りの人が「キヤー」とか「きゅ、救急車を」とか騒いでいる。
そんな中、体が壊死する兆候なのか次第に痛みは感じなくなり、意
識を失った。

ここまでは大丈夫だ。ちゃんと覚えている。なのにそこから先が
ちつとも思い出せない。

こんな暗闇が病院であるはずもないし、自分の部屋でもない。と
なると、ここはやっぱり地獄か夢なのだろうか。

「はあ、おれの人生もここまでか……」

どうせ誰にも聞かえないだろうと思いつき、呟いてみる。

「そんなことないわよ」

ぼくはいきなりの声に驚き、声のした後ろを振り返ってみる。

そこには少女がいた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2488ba/>

地獄の沙汰は何次第？

2012年1月6日11時46分発行